

ペルービアン・ヘアレス・ドッグ  
Peruvian Hairless Dog

F C I スタンダード No.310

■原産国

ペルー

■用途

コンパニオン・ドッグ

■F C I 分類

グループ5 スピッツ&プリミティブ・タイプ

セクション6 プリミティブ・タイプ

■序 文

この犬種は同胎に有毛の犬と無毛の犬が生まれるという遺伝特性により、その特殊性を保ってきた。暗黒時代を経て、無毛バラエティーは本犬種の最初のスタンダードを手掛けた畜犬学者である **Ermanno Maniero** 氏のおかげで、1985年にアムステルダムにて開催されたF C I 総会に於いてペルー原産犬種として正式に公認され、ペルービアン・ヘアレス・ドッグという犬種名の下、F C I スタンダード No. 310 の新犬種として登録されるという重要な節目を迎えた。

ヘアレス・ドッグの公認によって、コートッド・バラエティーが忘れられることはなかった。あらゆる繁殖プログラムから蔑視されていたが、現在のゲノム研究の発達によりこの犬種の遺伝的価値が強調され、その発展と保護に貢献している。ショー及び繁殖のためのコートッド・バラエティーの公認は遺伝的変異性の拡大に有利に働き、犬種を向上させ、新たなブリーダーを惹きつけた。

初めて登録されるコートッド・バラエティーの個体は、スタッドブックまたはアペンディクスに正式に登録された2頭のヘアレス・バラエティー間の交配により作出された個体であるべきであり、それらの個体及びその後の世代はヘアレス・バラエティーの個体とのみ交配することができる。コートッド・バラエティーの個体間の交配は、正式に登録されている両親犬以外から作出された犬の登録と同様に禁止されている。

■沿革

「viringo」として知られるペルービアン・ヘアレス・ドッグは、その特性故に様々な時代のペルー人の興味の対象となってきた。ピクス、モチカ、チャンカイ、ティアワナコイドの影響を受けたチャンカイ、及びチムーのような様々な前インカ文明の異なる文化の陶器に描写されている。多くの場合、ヘアレス・ドッグはピューマ、ヘビ、タカの代わりに描かれており、これは特にチャンカイ文化において際立っている。これらの描写でみられるように、ヘアレス・ドッグは前インカ時代の紀元前300年から紀元後1460年の考古学的な期間に現れたと言える。

■一般外貌

全体的な体躯構成は優雅で、ほっそりしており、スピード感と力強さを感じさせ、調和が取れ、粗野な面はない。この犬種にはボディ全体の被毛がないことが主な特徴であるヘアレス・バラエティーと、ボディ全体が毛で覆われているコートッド・バラエティーの2つのバラエティーがある。

もう一つの顕著な特徴は、ヘアレス・バラエティーに於いては、殆どの場合先天性脱毛症と関連して歯列が不完全であるということである。

## ■重要な比率

体高と体長の比率は1：1で、牝のボディは牡よりやや長めでもよい。

## ■習性／性格

気品高く、家族に対しては愛情豊かで、同時に、快活で、警戒心に富んでいる。一方、他人に対しては慎重で、良い番犬となる。

## ■頭部（ヘッド）

リュポイド系の構成をしている。

### □頭蓋部（クリニアル・リージョン）

#### スカル

中頭で、スカルとマズルは平行である。わずかに平行でないものも認められる。上部から見ると、スカルは幅広く、頭部は鼻に向かって次第に先細っている。眉のアーチはほどよく発達している。オクシパットの隆起はほとんど目立たない。

#### ストップ

ほとんど分からない程度である（約140度）。

### □顔部（フェイシャル・リージョン）

#### 鼻（ノーズ）

良く色素沈着しており、色はヘアレス・バラエティーに於いては異なる色調の皮膚の色と調和していなければならず、コーテッド・バラエティーに於いては毛色と調和していなければならない。

#### マズル

側望すると、鼻梁は真っ直ぐである。

#### 唇（リップス）

できる限り引き締まっており、歯茎に密接していなければならない。

#### 顎／歯（ジョーズ／ティース）

切歯はシザーズ・バイトである。ヘアレス・バラエティーに於いては、1本以上の欠歯があっても許容される。コーテッド・バラエティーに於いては普通に発達した完全な歯列で、位置も正常である。下顎はあまり発達していない。

#### 頬（チークス）

誇張なく発達している。

#### 目（アイズ）

警戒心に富み、利口そうな表情である。目は中位の大きさで、ややアーモンド型で、奥まりすぎることなく、出目でもなく、適性で標準的な位置にあり、寄りすぎても、離れすぎてもいない。色はヘアレス・バラエティーに於いては皮膚の色に応じて、ブラックからあらゆる色調のブラウンからイエローまで様々であり、コーテッド・バラエティーに於いては毛色によって異なる。いかなる場合でも、両目は同じ色でなければならない。眼瞼の色は顔の皮膚の明るさに応じて、ブラックからピンクまで様々で、明るいピンクは許容されるが、好ましくはない。

#### 耳（イヤーズ）

注意を払っている時には立耳であるが、静止している時には後方に向かって寝ている。長さは中位で、付け根は幅広い。先端に向かって次第に先細になり、先端はほぼ尖っている。耳の付け根はスカルの上部に位置し、先端は横向きで、斜めになっている。直立時の耳軸は50度から90度近い角度を成す。

## ■頸（ネック）

### 上部のライン

カーブ（凸状）している。

#### 長 さ

頭部とほぼ等しい。

#### 形

円錐を切ったような形をし、しなやかで、適度な筋肉がある。

#### 皮 膚（スキン）

きめ細かく、なめらかで弾力があり、皮下組織にたいへん近い。デューラップはない。

### ■ボディ

中胚葉型体格（訳注：筋骨の発達した体型）。

#### トップライン

水平だが、個体によっては背から腰にかけて盛り上がりが見られ、尻部では盛り上がりはなくなるものもある。

#### キ 甲（ウィザーズ）

ほとんど目立たない。

#### 背（バック）

真っ直ぐで、背筋が良く発達している。背の両側に沿って、筋肉の盛り上がりが腰部まで続いている。

#### 腰（ロイン）

頑丈で、筋肉が発達している。長さは体高の約5分の1に達する。

#### 尻（クループ）

尻のトップラインはわずかに凸状で、水平面からの傾斜は約40度である。丈夫で筋肉質な体躯なので、機敏な動きができる。

#### 胸（チェスト）

前望すると、過度にならない程度の十分な広さがあり、深さはほぼ肘にまで達する。肋は僅かに張っており、平らであってはならない。肘の後ろで測った胸囲は体高を約18%上回らなければならない。

#### アンダーライン及び腹部（ベリー）

アンダーラインは優雅ではっきりとしたラインを描いており、胸の下部から腹に向かって過度にならない程度によく巻き上がっている。

### ■尾（テイル）

尾付きは低く、付け根は太く、先端に向かって次第に先細る。興奮した時には、丸くカーブして背上に掲げられるが、巻き尾になるまでカーブすることはない。静止している時には、先端が僅かに上向きになった状態で垂れている。時には、腹部に向かって巻かれていることもある。長さはほぼ飛節に達する。尾は完全な状態である。

### ■四 肢（リムズ）

#### □前 軀（フォアクォーターズ）

##### 一般外貌（ジェネラル・アピアランス）

ボディによく接合している。前望すると、完全に垂直で、肘は外向していない。肩と上腕の角度は100度から120度である。側望すると、パスターンと垂直線の角度は15度から20度である。

##### 前 足（フォアフィート）

中位の長さで、ヘアー・フットのようなものである。パッドは頑丈で、暑さに強い。指

間の皮膜はよく発達している。毛色がブラックの犬は黒い爪をしており、毛色が明るい犬は明るい色の爪をしていることが好ましい。

#### □後 軀 (ハインドクォーターズ)

##### 一般外貌 (ジェネラル・アピアランス)

筋肉は丸みを帯びていて、弾力がある。臀部のカーブは明瞭である。寛骨と大腿骨の角度は 120 度から 130 度で、大腿と下腿との角度は 140 度でなければならない。後望すると、後軀は垂直でなければならない。

##### 後 足 (ハインド・フィート)

前足と同様である。

#### ■歩 様 (ゲイト/ムーブメント)

上述の四肢の角度により、ステップは比較的短い、スピードがあり、同時にたいへん柔軟且つしなやかな犬もいる。前望しても、後望しても、四肢は単線上で動いていなければならない (即ち、単線歩行)。

#### ■皮 膚 (スキン)

ボディ全体的に滑らかで、弾力がなければならない。ただし、ヘアレス・バラエティーに於いては、頭部、目の周り、頬には、ほぼ同心の線があってもよい。ヘアレス・ドッグの体内外の温度は、コーテッドであるか否かに関わらず、他の犬種と全く同じであることが調査の結果判明している。

被毛がないので、被毛を通じて熱を発散させる他の犬種とは異なり、直接熱を発散させる。

##### 色 (カラー)

ヘアレス・バラエティーの皮膚の色はブラック、スレート・ブラック、エレファント・ブラック、ブルーイッシュ・ブラック、あらゆる色調のグレー、ブロンズ、コッパー、ダーク・ブラウンから明るいブロンドまで様々である。これら全ての色は単色であるか、或いは、ボディのいずれかの部分 (望ましくは胸、脚及び尾) に色素沈着がない部分があってもよい。しかしながら、その範囲はボディの 20% を超えるべきではない。同等の状態では、単色が望ましい。

#### ■被 毛 (コート)

##### ヘアレス・バラエティー

被毛はなく、頭部や足と尾の先端の僅かな被毛のみが許容される。また、背に被毛が僅かに生えていることもある。これらの被毛はあらゆる色またはコンビネーションでも良い。

##### コーテッド・バラエティー

滑らかで、短く、詰まった被毛である。被毛はマール以外のあらゆる色またはコンビネーションでも良い。

#### ■サイズ

牡と牝で 3 つのサイズがある。

スモール : 25 cm ~ 40 cm

ミディアム : 41 cm ~ 50 cm

ラージ : 51 cm ~ 65 cm

体重は牡と牝のサイズに比例している。

スモール : 4 kg ~ 8 kg

ミディアム : 8 kg ~ 12 kg

ラージ : 12 kg ~ 30 kg

## ■欠 点

上記の点からのいかなる逸脱も欠点とみなされ、その欠点の重大さは逸脱の程度及び犬の健康並びに福利への影響に比例するものとする。

- ・片耳または両耳が半立耳のもの。
- ・ピンサー・バイト。
- ・コーテッド・バラエティーに於けるPM1の欠歯。
- ・デュークローがあるもの。

## ■失 格

- ・攻撃的もしくは過度のシャイ。
- ・肉体的または行動的に明らかに異常なもの。
- ・オーバーショット、アンダーショット。
- ・ずれた顎（即ち、ライ・マウス）
- ・コーテッド・バラエティーに於ける1本超の欠歯。
- ・垂れ耳、或いは、断耳された耳。
- ・舌がいつも口の外に垂れさがっているもの（麻痺）。
- ・目の色が異なるもの（ヘテクロマチン（異色症の目））。
- ・無尾、短尾、断尾された尾。
- ・ヘアレス・バラエティーに於いてスタンダード上で指摘されていないボディの部分に被毛があるもの。
- ・ヘアレス・バラエティーに於いてボディの20%超に色素沈着がないもの。
- ・コーテッド・バラエティーに於いて毛色がマールのもの。
- ・全体、または部分的に鼻の色素沈着がないもの。
- ・体高が65cmを越えるもの、または25cmを下回るもの。
- ・アルビノ。

注：・牡犬は明らかに正常な2つの睾丸が陰囊内に完全に下降していること。

- ・機能的かつ臨床的に健全であり、犬種のタイプを有しているもののみが繁殖に使用されるべきである。